

バンクーバー便り 27～『カナダの宝石ロッキー』

バンクーバー時間：2024年9月13日(金曜日)午前10時30分

日本時間：2024年9月14日(土曜日)午前 2時30分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り 27 をお届けします。

今回は前回に引き続き、カナダ・アルバータ州カルガリーの旅で尋ねたカナディアン・ロッキーの観光名所ルイズ湖とボウ湖をご紹介します。

家内の運転で早朝7時にカルガリーのホテルを出発し1時間のハイウェイ・ドライブでバンフに到着、さらに30分ほどでルイズ湖に着きました。夏とはいえさすが高山の観光地で朝は寒く、少し厚めのジャケットが必要でした。早朝で観光客のまばらなフェアモント・シャトー・レイクルイズ・ホテルの有料駐車(CA\$40)に車を駐車してホテルのロビーを通り抜けてホテルの中庭に出ると、カナダの観光ポスター通りの風景が目前に広がっていました。湖を囲む左右の連山は湖奥深くで湖に吸い込まれるように沈み、その狭間から湖水が流れ出ているように見えます。このバランスのとれた景観が多くの人々の目を奪うことは当然のことと思います。日が高くなるにつれ、明るく透明な日差しが肌を刺すように感じられます。それとともに観光客が「あれよ、あれよ」という間に増えて、ホテル前の湖畔は繁華街の賑わいになりました。陽の当たるベンチに腰掛けてホテルのクロワッサンをほおぼり、その美味さに舌鼓を打ちました。

ボウ湖はルイズ湖から車で30分ほどの距離にあります。湖に向かう途中の景色は変わらず美しく、残念ながらその美しさに浸りすぎると感動も徐々に委縮します。萎(な)えた気持ちを再び燃え上がらせる景色が突然、目に飛び込んできました。ボウ湖です。湖畔には観光ホテルはなさそうで、観光客もまばらでした。断崖地層の織りなす縞模様を背景に、湖上を流れる涼風で湧き立つ波が水鏡の縞模様を揺らす景色は、太古の静けさを彷彿とさせました。他にもバンフ国立公園には多数の湖がありますが、私たちは湖の観光を最初から2つに決めていました。それは団体旅行で多数の観光箇所を忙しく巡るうちに美への感動が均(なら)され募る疲労感からバスの中で居眠るという経験が思い出されたからです。

ボウ湖を後にバンフの町に入りました。バンフはジャスパーと共にカナディアン・ロッキーの観光の基地になっています。今回は時間と運転の負担を考慮してジャスパーは省きました。土産店と飲食店が整列する中心街は、日曜日のためか歩行者天国になっていました。広々とした目抜き通りの目指す先に雪を頂くロッキーの峻山が望まれ、あちこちにチロル風の家並みがみえます。「ここはどこ」という気持ちになりますが、娘が友達へのお土産を買うのにお土産店に入りました。「The お土産」という土産品が並ぶ店を数軒見て僕はすっかり観光気分を堪能しました。そんなわけでバンフでは宿泊せず、その近くにあるキャンモアという山村で宿をとりました。周囲に土産店はなく、従って混雑する観光客もいませんが、ホテルの窓からロッキーの鋭い山並みが望めます。この閑散とした山里ホテルとしては不思議なことにウォータースライダー付きの室内プールがあり、娘は大喜びでした。

バンフ国立公園はカナダの誇る大自然を満喫できる場所ですが、今は「軽井沢化」して大自然とは対極の位置にあるように感じました。40数年前に訪れたときには自然の中に溶け込んでいる開けた山村という記憶があります。それでも自然を保護しようとする政府の強い姿勢はみられ、やみくもに開発を進めることは控えているようでした。僕は手つかずの大自然の気迫におののき、人の手の入った安心のできる小自然に満足する臆病な現代人であることを今また実感させられました。



